

令和2年度

徳島市昭和小学校

「学力向上実行プラン」


学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 主体的・対話的で深い学びの視点にたった、わかる授業の実践
- 児童の聞く力・表現する力を育成する授業の実践

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	校長: 森田 範子	教頭: 西岡 秀信
1学年推進員 多富 美智	6学年推進員: 川口 能史	5学年推進員: 中内 悠久哉	
	4学年推進員: 西條 敬子	3学年推進員: 前嶋 拓磨	
	2学年推進員: 三崎 美枝		

校長

森田 範子 

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ドリル学習やスキル学習に取り組む習慣が身に付き、基礎的・基本的な知識・技能が定着してきている。 ●学力に二極化傾向がみられ、各学年に学力の低い児童が数名いる。苦手意識が基礎学力に大きく反映していて、学習意欲の向上が課題である。	・学習課題に確実に取り組み、基礎的・基本的な知識・技能を習得し、活用することができる。 ・話し方・聞き方のスキルを身に付けている。	・わかりやすい板書を工夫し、問題解決の流れにそったノートがとれるような指導を行う。 ・音読の大切さについて指導し、継続して取り組ませる。 ・パワーアップタイムの時間を計画的に活用し、児童の基礎的・基本的な力の定着を図る。 ・話し方・聞き方の指導を充実させる。	定期的に児童のノートを点検することで、板書の見直しを行うとともに、ノート指導の充実を図る。 パワーアップタイムの有効な活用に努めていく。		

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた表現の場で、積極的に自分の考えを表現したり伝えようとしたりする態度が見られるようになってきた。 ●相手の意図を捉えながら聞いたり、自分の考えの根拠を明確にして話したりすることはあまりできていない。	・話し手の言いたいことを考えながら聞き、目的や相手に応じて根拠を示しながら、自分の考えを適切に表現することができる。	・学習活動の中に、書く活動を積極的に取り入れ、自分の考えを深め、まとめる機会を設ける。 ・ふだんから自分の考えの根拠を明確にして話したり、書いたりする習慣を付けさせる。 ・学習活動の中にペアやグループで話し合う場面を効果的に取り入れる。	引き続き、自分の考えを書いてまとめる活動を積極的に取り入れ、考えの根拠を明確にして話したり書いたりできるように指導していく。		

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習課題に対してまじめに取り組むことができる。読書が好きな児童が多い。 ●決められた課題には取り組むが、自分から課題を見つけて進んで取り組もうとする態度は育っていない。また、学習に必要なものがそろっていなかったり、宿題を忘れてきたりするなど、学習習慣が定着していない児童がいる。	・望ましい学習習慣が身に付いている。 ・進んで学習に取り組む、学ぶ楽しさやわかる・できる喜びを感じることができる。	・「学習習慣チェックシート」を活用し、学習習慣の定着を図る。 ・授業に児童の主体的な体験や活動を積極的に取り入れる。 ・学習したことを振り返る場面を設定し、次への課題意識を持たせるようにする。 ・学年に応じた自主学習の仕方を指導する。 ・朝の読書タイムの時間の確保に努め、児童の読書習慣の定着を図るとともに、学年に応じた読書を推進していく。	「学習のきまり」を常時確認できるようにしておき、学習習慣の定着を図る。 自主学習のよいモデルを紹介し、児童が相互に学び合うことができるようにする。 毎日、短時間でも読書をする時間の確保に努める。また、おすすめの本を紹介し合う機会を設ける。		

令和2年度 学力向上ロードマップ

